

# 南原遺跡

平成9年度県営担い手育成基盤整備事業  
深山地区に伴う遺跡範囲確認調査報告書

1998. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が南原遺跡

# 序

このたび平成9年度に範囲確認調査を実施した南原遺跡の報告書を刊行することとなりました。

県営担い手育成基盤整備事業深山地区の土取り場として計画された地域に、たまたま南原遺跡が立地していました。しかし、遺跡の規模をはじめ性格については一切不明であったこともあり、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から補助金交付を受けて原村教育委員会が遺跡の性格を明確にしたものであります。

調査の結果、小豊穴と僅かな土器と石器を発見しただけで、当地方においては比較的小規模な縄文時代の遺跡であることがわかりました。この成果は今後の遺跡保護に役立つものと思っています。

このたびの発掘にあたり、諏訪地方事務所土地改良課の方々のご配慮、長野県教育委員会のご指導、長野県埋蔵文化財センターをはじめ発掘にかかる多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

また、発掘調査報告書刊行にいたる過程において、お世話いただいた関係各位にたいし厚くお礼申しあげます。

平成10年3月

原村教育委員会

教育長 大館 宏

## 例　　言

- 1 本報告は「平成9年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村南原に所在する南原遺跡の範囲確認調査報告書である。
- 2 発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会は、平成9年11月4日から12月19日にかけて実施した。整理作業は、平成10年1月5日から3月24日まで行なった。
- 3 現場での記録と写真撮影は平出一治と平林とし美が行なった。
- 4 執筆は、平出と平林が話し合いのもとに行なった。
- 5 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。  
なお、本調査関係の資料には、96の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、原明芳・武藤雄六の両氏に御指導・御助言をいただいた。  
厚く御礼申し上げる次第である

## 目　　次

例　　言	
目　　次	
I 発掘調査に至る経過	5
II 発掘調査の経過	5
III 遺跡の位置と環境	7
IV グリッド設定・土層・調査方法	7
V 遺構と遺物	10
VI まとめ	12
引用参考文献	
発掘調査団名簿	
報告書抄録	

## I 発掘調査に至る経過

平成 6 年度から実施されている「県営担い手育成基盤整備事業深山地区」も 4 年目をむかえたが、県営担い手育成基盤整備事業深山地区は、地域全域にわたって耕作土が薄く礫が多いことから客土が必要であり、事業当初から土取り場が 2 ~ 3 予定されていた。平成 8 年度には、久保地尾根遺跡（第 6 次発掘調査）で土取りに先立つ緊急発掘調査を実施したが、客土の不足は目に見えていることであった。

そんなことで平成 8 年 11 月 11 日に行なわれた「平成 9 年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区にかかる埋蔵文化財保護協議」で、南原遺跡の保護について協議され、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいことであるが、農地の将来のためには客土は必要なことであり、事業地区外の遺跡破壊は痛手であるが、「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。しかし、有頭石棒をはじめ土器や石器の発見を聞くが、遺跡の範囲および性格が一切不明なため、平成 9 年度に確認調査を実施し、今後の発掘調査と土取りの調整を計っていくこととなる。協議出席者は、長野県教育委員会文化財保護課、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の 4 者である。

原村教育委員会は、国庫および県費から発掘調査補助金交付を、また、諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託をうけ、平成 9 年 11 月 4 日から 12 月 19 日にわたって範囲確認調査を実施した。

## II 発掘調査の経過

平成 9 年 11 月 4 日 発掘調査の準備をはじめる。

5 日 諏訪地方事務所土地改良課・原村役場農林課と現地で発掘調査について打合せを行う。

7 日 基準杭の設定とトレーニングの設定を行う。

10 日 今日から重機によるトレーニング掘りをはじめる。

11 日 地権者の皆さんと境界の確認を行い、深山地区の実行委員会・原村役場農林課と現地で打合せを行う。

14 日 小豊穴状の落ち込みを確認するが、性格については不明である。

12 月 3 日 遺構の検出作業を行い、小豊穴 1 ・ 2 を確認する。

4 日 引き続き遺構の検出作業を行う。重機による埋め戻しをはじめる。

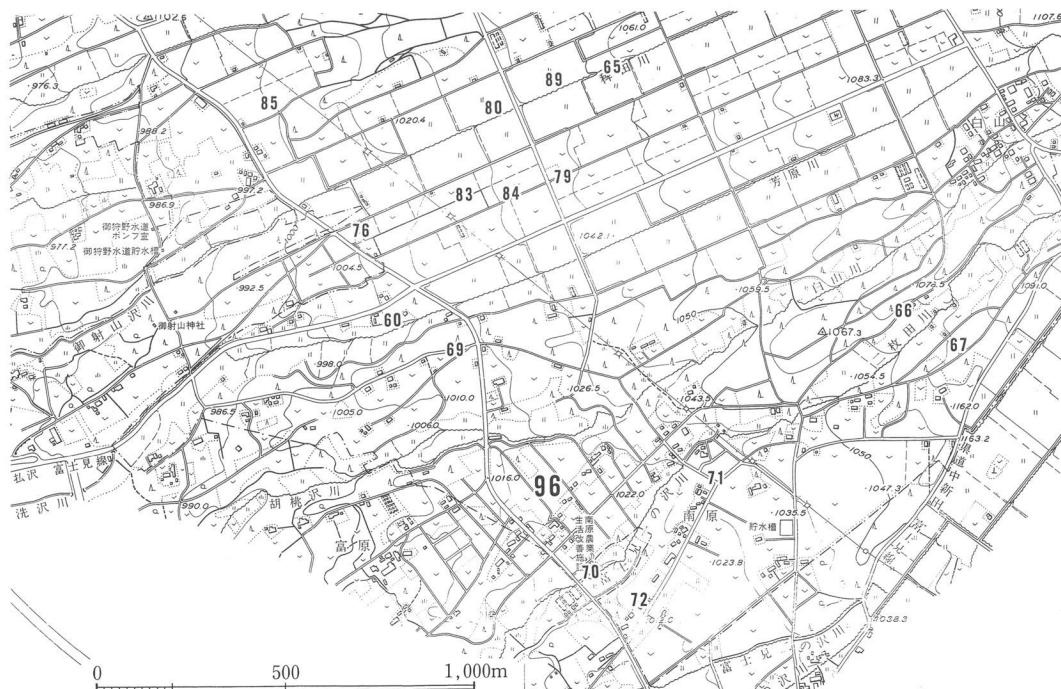
15 日 作物の関係で手が付けられなかった地区的トレーニング掘りを行う。

19 日 片付けを行い今日で調査を終了する。

表1 南原遺跡と付近の遺跡一覧

○は遺物発見 ○は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文		弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早前中後晩							
60	浅間沢		○	○							
65	梨の木沢		○	○				○	○		平成元年度発掘調査、消滅
66	追分沢			○				○			一部破壊 有頭石棒
67	二枚田			○							打製石斧・石鎌
69	赤羽										昭和59年一部破壊
70	南原西		○	○					○		平成4年度立会い調査
71	南原東			○					○		昭和25~27・59・61・平成5年度
72	徳久利	○		○ ○							発掘調査
76	御射山	○	○	○ ○				○	○	○	昭和59・60・平成4年度発掘調査
79	中御射山東					○					昭和59年度発掘調査 消滅
80	御射山沢					○					昭和59年度発掘調査 消滅
83	花表原					○					昭和59年度発掘調査 消滅
84	中御射山西					○					昭和59年度発掘調査 消滅
85	箕手久保					○					昭和61年度発掘調査 消滅
89	梨の木沢西										平成元年度発掘調査
96	南原		○	○							平成9年度範囲確認調査



第1図 南原遺跡の位置と付近の遺跡 (1/20,000)

### III 遺跡の位置と環境

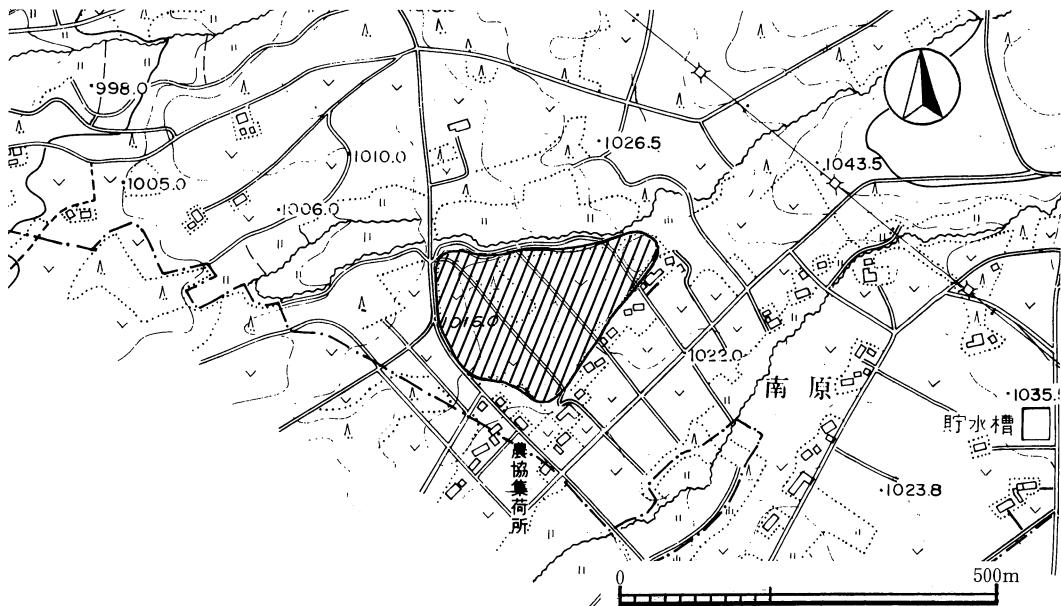
南原遺跡（原村遺跡番号96）は、長野県諏訪郡原村南原区の集落内に位置する。標高は1020m前後を計り、当地方においては遺跡の希薄地域である。なお、原村における遺跡の高度限界は1200m前後のラインである。

このあたりは八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根がみられる。その一つである白山川と二枚田川（富士見一の沢川）にはさまれた尾根上が遺跡で、村内でも極めて尾根幅は広く、広いところでは180mを計る。地目は普通畠であるが、南斜面は住宅地として利用されている。

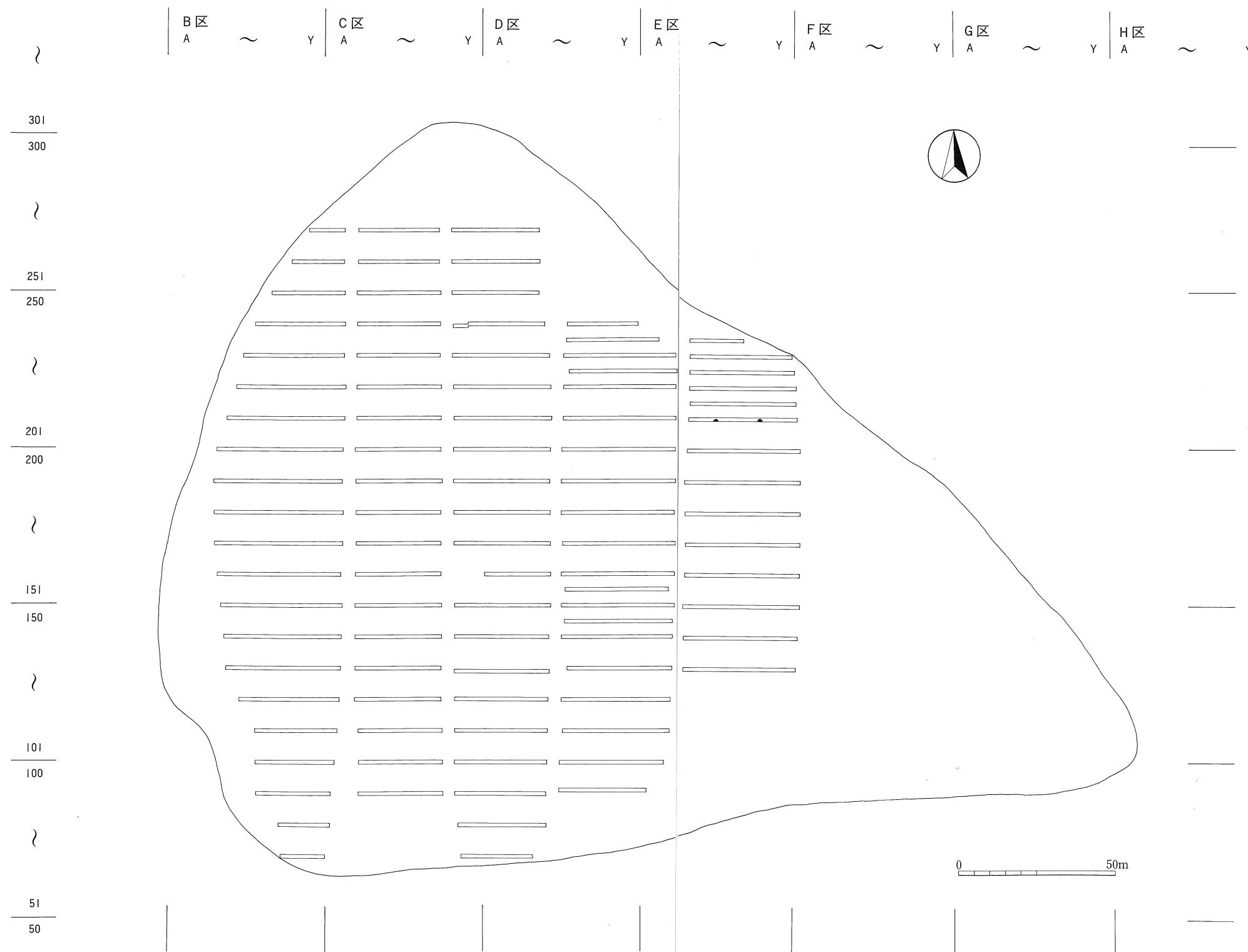
本遺跡は「発掘調査に至る経過」で触れたように、有頭石棒をはじめ土器や石器の発見を聞くが、遺跡の範囲および性格などは一切不明なままであった。付近には、第1図と表1に示したように縄文時代早期・中期・後期を中心とした遺跡が分布している。それらの遺跡は昭和59年度に行なった分布調査の折に発見したものが多く、今までに実施した発掘調査の結果をみると、比較的小規模な遺物散布地が多いようである。

### IV グリッド設定・土層・調査方法

戦後の開拓地であることから耕地の区画は整っていたため、その区画と自然地形を考慮し、第



第2図 南原遺跡発掘調査区域図・地形図 (1:10,000)



第3図 南原遺跡クリッド図 (1/1,500)

3図に示したように地形にならったグリッド設定を行った。

調査地区の東西方向に50mの大地区を設け、西からA区・B区・C区というようにアルファベットを用いて地区割りをした。大地区の中をさらに $2 \times 2$ mの小地区（グリッド）に分割し、東西方向は西からA～Yのごとく区分した。南北方向には算用数字をふったが、遺跡の中心と思われるラインを150とし、そのラインを基準に南方向は149・148・147というように南にいくにしたがい小さくなるように、北方向は151・152・153と大きくなるように振分けた。

調査地区の土層は広範囲におよんでいたこともあり、ローム層までの深さは20～359cmと大きな違いがみられ、すでに地山のローム層が削平されている個所もみられた。遺物が出土し、遺構が認められたE地区のおおまかな観察結果は次のとおりである。第I層は畑の黒色土（耕作土）で厚さは15～20cm。第II層は黒褐色土で第I層よりしまり18～20cm。第III層は褐色土で10～16cmを計る。第IV層がソフトローム層である。

調査は、数回におよぶ踏査を行なう中で調査方法を検討したが、遺物を採集することができないままであったため、まずははじめにC地区で重機を使用したトレンチ掘りを行った。しかし、遺物を発見することはできなかった上に、遺構を確認することもできなかった。それは調査前に考えていた状況とはあまりにも違っていたこともあり、当初計画したグリッド調査をとりやめ、重機でのトレンチ掘りを行い遺構を検出する方法とした。トレンチの間隔は10mとし、遺物が出土し落ち込みを認めた地区の外縁部は、トレンチ間隔を5mとし、できる限り遺跡の範囲を明確にしたつもりである。ちなみに、トレンチの総延長は2,909.9mで調査面積は3,491.88m<sup>2</sup>となる。

トレンチの幅は重機のバケット幅である1.2～1.3mで、その方向はグリッドの東西方向の軸にあわせた。トレンチの呼び方はグリッド設定で用いた算用数字で呼ぶことにした。例えば、B地区南端のトレンチは便宜的に85ライントレンチと呼ぶことにした。

## V 遺構と遺物

### 1 遺構

#### 小堅穴

重機のバケット幅という限られた範囲の確認調査であり、不明瞭な点も多いが小堅穴と思われる落ち込みを2基（第3図）確認した。また、数基の落ち込みを認めたが、その確認範囲は狭く性格のわからないものもある。

### 2 遺物

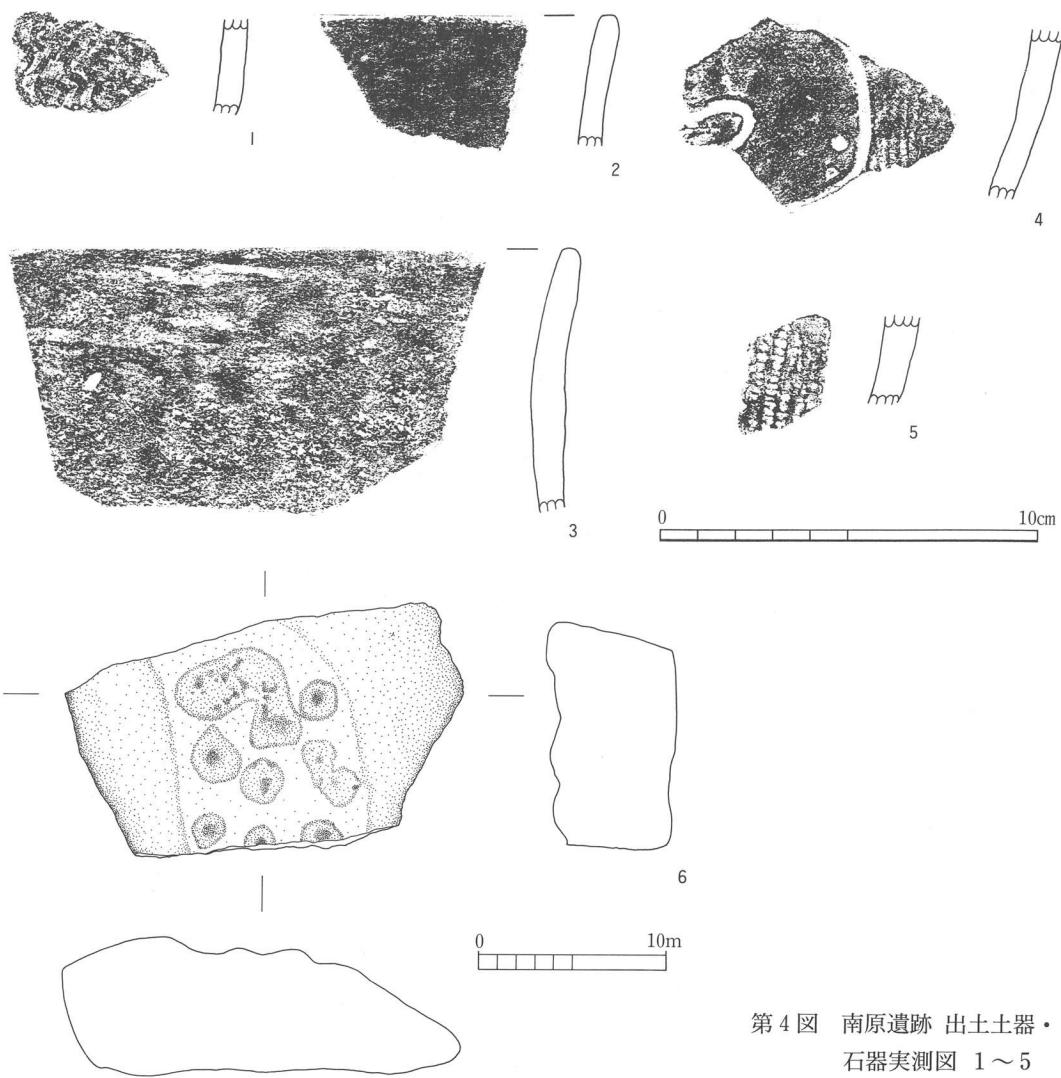
縄文時代の土器と石器を僅かに発見しただけである。若干の説明を加えて見たい。土器は破片ばかり18点あり、うち5点を図示した。石器は蜂の巣石1点と黒曜石の剝片がある。蜂の巣石は図示したが黒曜石の剝片は図示しなかった。

## 土 器

第4図1は縄文時代早期の山形押型文土器の胴部破片で、胎土・焼成は普通である。2～5は後期初頭の土器で、2と3は無文の口縁部破片であり、2は胎土・焼成とも良いが、3の焼成はあまり良くない。図示できなかった土器のうち9点は無文の胴部破片で、それらも胎土および焼成からみると後期初頭に帰属するものと思われるが、1点だけ中期後葉と思われるものがある。4は沈線と縄文が、5は縄文が施された深鉢の胴部破片で、胎土・焼成とも良い。

## 石 器

第4図6は当地方で産出する輝石安山岩製の蜂の巣石で、当地方で一般的にみられるものである。安定のわるい平板状の自然石に凹穴が穿たれているが、凹穴は打撃によるもので一面にみられるだけである。なお、凹穴の状態から本資料は破損品である。



第4図 南原遺跡 出土土器・  
石器実測図 1～5  
(1/2) 6 (1/4)

## VI まとめ

調査の結果、発見した遺構および遺物は少なかったが、それはD地区とE地区の151ライントレンチの北側となり、そのまどまり以外ではC S-105グリッドで土器破片1点を発見しただけである。

発見した遺構は、小堅穴と思われるものを確認しただけであり、住居址と認定できるものは確認できなかった。トレンチ調査だけで遺構の埋没状況を全て把握することはできないが、本調査におけるトレンチ調査は10m間隔であり、その面積が少なすぎたとは思えないことから、住居址が埋没している可能性は低いようである。発見した土器は、縄文時代の早期と中期に大別できるが、その数は少なく遺物から遺跡の性格を語ることはできない。

以上が、本調査における成果であるが、今後の開発に伴い発掘調査を必要とする範囲は、遺構および遺物を発見した7,200m<sup>2</sup>である。

最後に、関係者各位ならびに小雪がちらつく寒い中、発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

### 南原遺跡発掘調査団名簿

団長 大館 宏（原村教育委員会教育長）

調査担当者 平出 一治

調査員 平林とし美

調査参加者 発掘作業 森山 源司 田中 初一 朝日 治郎 小林 りえ  
野明 昭子 林 史子 津金喜美子 進藤 郁代  
久根 種則 (順不同)

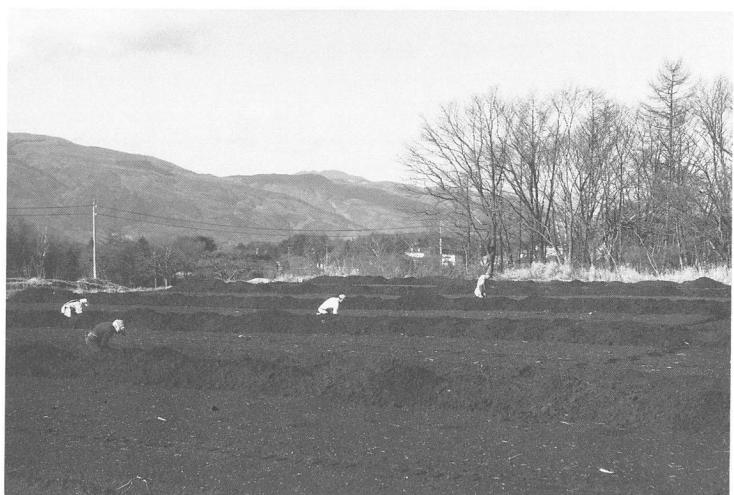
整理作業 清水 正進

事務局 原村教育委員会 中村 正英（教育次長） 津金 一臣（庶務係長）  
伊藤 佳江 平出 一治（文化財係長） 平林とし美  
石川 美樹 櫻井 秀雄（県派遣主事）

発掘調査区（北西から）



発掘風景（南東から）



トレンチ・小豈穴  
検出状況（西から）



## 報告書抄録

ふりがな	みなみはらいせき						
書名	南原遺跡						
副書名	平成9年度県営担い手育成基盤整備事業深山地区に伴う遺跡範囲確認調査報告書						
卷次							
シリーズ名	原村の埋蔵文化財						
シリーズ番号	48						
編著者名	平出一治 平林とし美						
編集機関	原村教育委員会						
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村12080 Tel 0266-79-2111						
発行年月日	西暦 1998年03月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
みなみ 南 原	ながの けん す おぐん 長野県諏訪郡 はらむらみなみはら 原村 南原	3637	96 35度 56分 01秒	138度 14分 00秒	19971104 ～ 19971219	3,491	平成9年度県 営担い手育成 基盤整備事業 深山地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
南 原	包蔵地	縄文時代	小豎穴2基を確認		早期・中期・後期土器 破片	発見した遺物 が少ないと もあり、遺跡 の性格は明確 にできなかっ たが、今後の 開発で発掘調 査を必要とす る範囲は示す ことができた ものと思って いる。。	

原村の埋蔵文化財48

**南原遺跡**

平成9年度県営担い手育成基盤整備事業  
深山地区に伴う遺跡範囲確認調査報告書

発行日 平成10年3月

発行 原村教育委員会  
〒391-0192 長野県諏訪郡原村  
TEL 0266-79-2111

印刷 もえぎ企画書籍  
〒394-0043 岡谷市御倉町2-21  
TEL 0266-22-4892

